

議会報告会 会場報告書

担当班： 第 1 班 班代表者：原田 豊彦

概 要		
地区名 : 丹南地区 日時 : 令和7年11月5日(水) 場所 : 四季の森生涯学習センター 参加人数 : 7人(男5人・女2人)	(1) 開会あいさつ : 原田 豊彦 (2) 質疑応答 : 原田 豊彦 安井 博幸 前田えり子 本多 紀元 (3) 意見・提言等 : - (4) 閉会あいさつ : 安井 博幸	挨拶・総括 : 原田 豊彦 安井 博幸 司会進行 : 本多 紀元 記録・受付 : 前田えり子 向井 千尋 会場(マイク) : 野々村 康

【主な質疑】

質疑・意見(第一部 議会報告について)	回 答
公共交通対策事業について、東部エリアで先行して実施されているとのことだが、実績はどうか。 予算額約1,000万円に対して投資効果はあるのか。	市町村有償運送を行っている地域もあるが、各地域で同じようには立ち上げられないこともあり、行政の支援を得て、昨年より東部エリアで開始している。現在1日平均12人程度の利用があると聞いており、9月の利用実績は村雲雲部ルート88人、日置福住ルート140人、畑城北ルート88人と報告があった。 登録者は300人から645人と2倍以上に増えている。 高齢化が進む地域の貴重な交通手段として期待している。
救急安心センターについて、#7119は何処につながるのか。	市内の消防署や病院ではなく、県の機関につながることになっている。急なケガや病気で、救急車を呼ぶか迷っている時に相談できる。
こんだ薬師温泉について、週に1回程度利用しているが、毎日利用されている地元の高齢者もおられる。料金の上限を値上げされる予定とのことだが、地元住民や高齢者等への配慮、例えば市民割引や回数券などを考えてほしい。	近隣の市町が1,000円程度となっていることから、今回の条例改正に至っているが、すぐに値上げするわけではない。貴重なご意見、ご要望としてお受けする。

議会報告会 会場報告書 2部 『地域の未来を担う人 育て守るためには』

丹南地区 1班 班代表者：原田豊彦

A 参加者からの意見や課題

- ・農業や村の祭り等の後継者がいない
- ・伝統行事の継承ができなくなっている
- ・移住者との交流がない
- ・多世代交流の場がコロナ以降復活していない
- ・ワクワク農村モデル事業は役員や住民の協力がないとできない
- ・部活動(中学校)への入部が減り、チーム編成ができなくなっている
- ・公共交通の利便性を確保することが必要
- ・市内に魅力ある就労場所がない
- ・クマが出ている
- ・防災無線が全戸にあれば良い
- ・医療が心配、救急は丹波市に行っていることが多いようだ
- ・市外で出産する人にも助成してほしい
- ・丹波篠山は子育て支援が手厚いと移住した人がいるが、大切なことは郷土愛ではないのか
- ・インスタなどのSNSをもっと活用して市の情報発信をしてほしい
- ・市内高校への進学率を高めることが必要
- ・外からの人材が就農しやすい環境の整備をしてほしい

B 参加者からの対策や解決するために必要なこと

- ・自治会長などのキーパーソンの話を聞くことが大切
- ・地域が大好きになれるイベントを開催できれば良い
- ・食事会などを度々開催できれば良い
- ・神戸大の実習を受け入れて、アドバイスを得る
- ・デマンド交通の利用増のために課題を洗い出し、解決する
- ・引き続き企業誘致に取り組む
- ・部活動のあり方について、教育長がリードしていくべきだ
- ・防災のために情報を共有できる方法が必要
- ・市外での出産にも助成金があれば良い
- ・インスタでの発信を活用する
- ・市内高校の長所をPRする
- ・就農アドバイザーの充実



【考察】参加者の意見から見えてくるもの

- ・後継者不足により農業や村の伝統行事の継承ができなくなっていくことを危惧している。住民の地域愛を高めることが必要だ。
- ・移住者や多世代交流がコロナ以降途絶えていることを課題としている。継続的な交流機会の創造を図るべき。
- ・ワクワク農村モデル事業は役員や住民の協力がないとできない。自治会の世帯数が多かったり、役員の協力が得られなければ取組みが難しいため、地域住民が積極的に自治会長などのキーパーソンの話を聞く事の出来る環境が大切である。
- ・地域医療への不安や市内の分娩医療機関の利用が増えないことは課題であると感じられている。安心して受けられる医療体制が必要だ。
- ・防災、クマ対策など安全対策が必要であり、防災のための情報共有をしていくべき。
- ・部活動の地域移行は中学生など当事者のみならず、多くの市民から関心がある。部活動の今後の在り方について引き続き精力的に検討する必要がある。